

2018 (H30) 夏期講習のご案内

いよいよ梅雨も明け、日差しも暑さも夏本番となって参りましたが、皆様にはお健やかに過ごしのことと存じ上げています。

平素より、当校の指導方針へのご理解をいただきありがとうございます。

さて、今年も夏期講習を下記日程で実施させていただきます。

【前期】平成30年7/21(土)～8/13(月)

(8/14(火)～8/16(木)3日間は盆休み)

【後期】平成30年8/17(金)～9/30(日)

■これから夏休みを迎える生徒諸君へ(ある先輩の合格への道)

1回目の5月コンピューター・テスト【志望校判定テスト】がE判定だったA君。

憧れの第一志望校Hに何が何でも合格したい気持ちが強いだけに、そのショックと焦りは相当なもの。<※コンピューター・テストは以下「CT」に>

とは言え、受験までのに残された時間はたった7カ月(中3・7月末)。【一教科を入試合格レベルに達するには40日あまり。2学期以降の平日は学校もあるので受験勉強に取り組める時間は頑張ってもせいぜい3～4時間。おまけに2学期は学校行事が多く忙しい・・・時間が全然ない・・・(焦)】

「英語(長文、英作文が苦手)」、「理科(物理、化学が苦手)」、「国語(文章読解が苦手)」が合計点の足を引っ張り、合格目標点および偏差値を全く満たしていない現実。

しかし、夏期面談でお母さんと同席していたA君に対し「夏期講習で必死に頑張れば、逆転は可能。ただし計画性がなく、中途半端な努力をするなら合格は難しい。また9月から頑張っても皆が部活引退し、本格的な受験追い込み学習を開始するのでライバルとの差は非常につきにくい。頑張るのはこの夏。最後のチャンス。」と言って励まし「数学、英語の受験勉強の効果がはっきり出るのは個人差もあるがおよそ3カ月後。また10、11月の実力テストとCTは一時的に得点と偏差値が下がる。これは夏期講習を頑張った受験生のみに限る好転反応だから気にすることは無い。逆にチャンスと捉えなさい。」と付言すれば、彼は活路を見いだしたのか、面談前は落胆で曇り気味の表情はみるみる明るくなり、「明日から夏期講習をほぼ毎日でお願いします。」と元気よく返答し、笑顔で教室を退出。

翌日から彼は朝は9:00～12:00まで夏期講習。お昼は家庭学習。夕方17:00から21:00まで通常授業と夏期講習。人が変わったように一心不乱に学習に打ち込む。

彼を駆り立て支えていたものは「絶対にH高校に合格する!」・・・その気持ち一つ。

「自分でも今までこんなに勉強したことがない。というより勉強していたら1日があっという間に過ぎ、時間がいくらあっても足りなかった」と後日言っていた。

この夏の頑張りが効を奏し、9月から12月の毎月実施のコンピューター・テストはD→C→B→B。冬期講習では本番までの残り時間があとわずかなので「時間対成果」を考慮し、苦手科目の苦手単元のみを絞って、集中特訓。

1月の最後のコンピューター・テストは判定A。それが励みと自信になり、入試当日まで時間を惜しみただひたすらに追い込み学習。・・・3月見事合格。

私の携帯にかかってきた「塾長！！やった～！！」とこちらの鼓膜がつぶれそうなほどの喜びの大声は今でも忘れることができない。【数ある追い込み逆転合格の一例です。】

⇒中3生はとにかく時間がなくて、飯・風呂・寝る以外は「勉強」と覚悟すること。遊んでいる時間はないと思うべし。【必死に勉強してきて、一度、遊んでしまうと、その遊びの快楽が忘れられず反動となって遊びがウエイトを占める夏休み生活・受験生活に陥りやすい意味を込めて。息抜きとして遊ぶなら計画に遊びの日をあらかじめ設定するのがよい。】

中1、2生は中3で余裕の受験対策（上の体験記は合格したものの、余裕が全くない強行軍なのであまり中3夏休みに真似て欲しくありません。体調も壊しかねないので・・・）を展開するためにも、まず、受験志望校（もう決めてください。高く掲げても構いません。高いほどモチベーションが上がるので【志望校選定に迷われたり、わからない場合はいつでも相談に乗らせていただきます。】を明確にした上で、自分の苦手科目とその中の苦手単元をしっかりと把握し、受験本番までの残り日数を今から強く意識し、計画を立て、この夏は「前学年・前学期の復習＋2学期の先取り学習（英数優先）」に励むこと。

中3生に比べて、時間に余裕がある分、「先手必勝」が非常に有効なので、第一志望校の合格の確率はグッと高まるは言うまでもありません。「いま頑張るか、あとで苦勞するか。」です。

「夏期講習」は基礎基本に立ち返り、たくさんの学習ができるまたとない絶好のチャンスです。

夏休みは誘惑に負けて遊び三昧のライバルが必ず出てくるので大差をつけることもできます。

■滋賀県公立入試傾向の変化に対する夏休みの取り組み

ご存知の通り、H26年度を機に滋賀県の公立入試の傾向は思考力、表現力、記述力を問う問題が増えるなど大幅に変化（複雑難化）して、従来の対策では非常に得点しにくくなっています。今後この傾向は続くことは間違いないでしょう。【定期テストも公立入試の変化を意識してか、英語は教科書の長文からほとんど出題されず、初見の長文問題ばかりの出題。数学、理科は入試レベルの問題も。社会は記述式問題が大幅に増えるなど、定期テストの本来の趣旨（教科書とワークからそのほとんどを出題する。）からだんだんかけ離れてきています。2学期から始まる中3実力テストはその傾向に合わせ得点しにくいと予想できます。】

しかし、夏休みは時間がなくて対策できないと決して焦らず（特に中3受験生）、腰を据えて、5科の基礎基本に立ち返るべきです。2学期の学習をスムーズに進めるためにも、基礎基本には十分に時間をかけて、土台作りに励んでください。【CTで偏差値55を超えている場合には標準、応用問題を中心にどんどん取り組んでください。】

その成果は秋以降必ず成果が出ます。（数学、英語は個人差はありますがおよそ3カ月後に効果が現れます。）付加するならば、夏休み前に志望校を明確に決め、強く意識している生徒の成績は夏期講習後のCT（コンピューター・テスト）結果に顕著に出ます。

■学習はまず計画と目標から／学力方程式＝「やる気(集中力)」

×「学習の量」×「学習の質」

勉強時間(量)と学力は間違いなく比例します。勉強すればするだけ学力は上がります。ただし注意してもらいたいのは勉強方法が間違っていないという大前提です。

「1学期、それなりに頑張り努力したのに結果が伴わなかった。」

原因あっての結果。必ず、原因があります。

「原因がわからないまま、身につかない学習をそれで良しと延々と続け、自己満足に浸っていた。」です。

勉強法は各自に合ったスタイルがあります。それで伸びれば問題ないのですが、伸びなければ、夏期講習が始まる前に、今一度見直し、1日も早く改善して下さい。原因がいまいち、わからなければ、担当講師に時間をかけて相談してみましょう。

根本的原因を追求し、気づき、把握し、改善しないことには、この夏休みに頑張っても、同じことを繰り返して、2学期以降の成果が見えなくなります。

■授業で伸びる生徒の共通の特長は、

①遅刻しない【特別な理由は除く】

②先生を信じ、先生の言うことをよく聞く

③しっかり集中して私語をしない。

④宿題は必ず取り組む。

【①～④は基本です。まず、授業時間を短く感じます。】

+

⑤授業で間違ったところを2度と間違えないように復習を徹底する。(反復学習)

⑥予習する。

【⑥までいけば伸びない方がおかしいです。①コマ80分授業ではこちらは解き方、考え方を教え「分かる」にします。④～⑥で「できる」にするのです。ここは生徒諸君の努力でここが成果の分かれ目です。「英単語熟語」の暗記する、「計算を早く正確に解く」は、授業中の先生にはどうしようもありません。生徒さんの日々の努力によるものです。】

家庭学習・自習においては、同じ1時間でも集中力を高めて英単語を40個覚えるのと、漫然と10個覚えるのでは学習密度と定着度が全く異なり、天地の効果差があります。まず質量を意識してその結果が勉強時間です。勉強時間を意識するのはよいものの質量が伴っていなければ本末転倒で学習成果はいつまで経っても現れません。質量がしっかり充実した勉強時間を重ねていくことです。加えて必ず反復学習は必ず行ってください。性格や学力状況にもよりますが、良質の問題集を1冊多くとも2冊にとどめ、それを何度も何度も繰り返すのです。1周、2周、3周・・・と繰り返す度に着実に実力は付きます。(問題集がボロボロになればなるほど実力はついていきます。)ここで力説したいことは、わからない問題は先生にすぐに質問し、完全に納得するまで家で反復して「わからない」→「わかる」→「できる」にすることです。わからない問題→できる問題にしてその数を増やしていけば実力がつくのは当然です。(オリジナルの間違いノートを作れば効果テキメンです。)

【③／⑥】

「わかる」＝問題の解き方はわかっているが、いざテストになっても解答用紙にかけないこと。
「できる」＝いきなりテストされてもしっかり解答でき、確実に得点することができることです。

さらにもう一つは問題集には絶対に解答を書き込まず。別のノートに書き込み、採点することです。答えは簡単。繰り返せない（反復できない）からです。【学校提出物のワークは仕方ありませんが、もしそこからテストが出題されるなら、ワークをコピーし、そこには何も書き込まずにノートに解答を書いてひたすら繰り返してください。】

また、間違いは、消さずにいつ（日にちを書くとき）どこを（フセンを貼るとよい）なぜ（先生にすぐに質問し一切の疑問点も残さないこと）間違えたかを明確にして、次回取り組んでも完全に解けることです。（その時はフセンをはがしてください。フセンの数が少なくなるほど実力はついているということです。）・・・

☆英単熟語は手間がかかりますが「単語帳」を使うのが抜群の効果です。（いつでもどこでも持ち運べ定着度を確認できます。英作文はさらに良しです。文法も英単熟語もまるごと覚えられるので。和文⇒英文、英文⇒和文どちらも完璧にできてはじめてOKです。もちろん英単熟語だけではなく、歴史の年号（ゴロ合わせはさらに効果抜群）や理科、社会の重要語句、漢字にも応用できます。

☆意外と知られていない裏技があります。「計算問題」の取り組みです。

計算練習の際は万年筆かボールペンで取り組むことです。効果は絶大で、1カ月も取り組めば、深刻な符号のケアレスミスも解消するでしょう。その際は、かならず、計算の過程をしっかりと書き記すこと。どこでなぜ間違えたかをすぐに把握できますし、高校数学は計算過程を重視するので、後で苦勞することもなくなります。

学習効果の差が、こういう工夫と地道な作業の積み重ねによるものが非常に大きいのです。

特に夏休みは学校が長期間休みにより規則正しい生活が一気に崩れる傾向にあるので、質量がしっかり伴った勉強時間をいかに捻出したくさん増やすかで、そのためにはまず「やる気」、そして「集中力」を最大限発揮することです。「やる気」あつての初めての「集中力」で、車に例えるなら「やる気」は燃料です。なければ車は絶対動きません。

成績を伸ばす子は例外なく「集中力」があります。（休憩の取り方も非常に上手です。）目標が明確で、それに基づく計画性もあり目標を必ず達成しようとする気持ちがとても強いです。行き当たりばったりの勉強は決してしません。

そのためにも前述のとおり志望校を決めて目標し、受験本番までの残り時間を強く意識してそれに基づく計画をしっかり立て、あとは自分を信じ、その目標に向かって計画に沿ってただひたすらに努力を重ねて進んでいくだけです。（小、中、高の学年を問わずです。設計図がないと家は絶対建ちません。航海図と羅針盤がなければ目的地には絶対たどりつけません。）

目標（夢）と計画がなければ、勉強に限らず、人生はメリハリなく無味乾燥したつまらないものになります。

A君とB君の夏休みのそれぞれの過ごし方

夏休みの40日間。学校は長期間の休みで、親は仕事。意志力と行動力で自分を律し、生活を自身で管理しなければならない。

毎年のことだが2通りにはっきり分かれる。・・・A君は、テレビゲーム、携帯、テレビ、パソコン等の誘惑に駆られ、どっぷり漫かり、勉強など1分もせず。それにより起床就寝時間はメリハリのあった学校生活時のそれと比べ乱れに乱れる。翌日、起床時間は昼を過ぎる。体がとてつもなく気だるく、しばらくボーっとしている。目が冴えたところで、夕方が来てまたゲームに携帯に深夜まで夢中。

皮肉なことに一度身についた生活習慣は悪習慣ほどよく身に付き情性で怠惰な生活はそのまま続く。

無駄に過ごせばあっという間に過ぎ去る。

気が付けばセミの鳴き声はとうに止み、鈴虫の鳴き声が聞こえ始める。

夏休みも終盤。もうすぐ9月。勉強はおろか宿題すらできていない。必死で宿題を片付けようと解答を書き写す。

その一方、B君は第一志望校を決め、「絶対に合格してみせる！！」と心に誓う。まず受験本番までの残り日数と1教科に入試レベルまで取り組める日数と時間を算出し、月一週一日とブレイクダウンさせ、それぞれのやるべきことを計画ノートに書き記す。

その日にやるべきこと【予定】(英単語50個暗記。数学新演習P50から60、英語夏期講習テキストP25～32)と実際にできた量をノートに書き写し、比較。できなかったページを把握。

できなかったページは土日の調整日に取り組む。しかしそれでも計画ノートを見て今までの勉強量の記録とこれからの取り組むべき勉強量を冷静に分析すると目標達成までに時間が足りないことを悟る。(どこかで、「早朝の勉強は晩の勉強の3倍。昼の勉強の2倍」と聞いたことがあるな。)

思い立ったが吉日。翌日より早朝勉強を実施。初日は眠く体が辛い、体が次第に慣れていき、その回り知れない成果を体感する。8月末。いろいろあったがキツメめの計画は見事達成。

・・・2学期からの成績は10月を境に右肩上がりの急上昇。勉強はわかればこれほど楽しいものはない。・・・翌年3月。1学期には絶対無理だと言われ続けてきた一志望校に上位で合格。・・・今となっては一人ぼっちだったけれど完全燃焼できた夏休みが非常に懐かしい。あの頑張りがなければ今はない。今後の私の人生の糧となり、支えてくれるだろう。

→夏休みの40日という期間は無駄に過ごせばあっという間ですが、明確な目的意識を持って過ごせば成果を得るのに十分な時間でもあります。皆に24時間という貴重な財産が神様から平等に分け与えられています。どう使うかはあなた次第。あなたはA君、B君のどちらの夏休み生活に感銘をうけたでしょうか。

・・・時だけはどんなに大富豪でも24時間を30時間にとけっして増やすことはできません。

しかし無駄な時間を節約して有意義な時間を増やすことは意志と行動で誰でも可能です。

「時間を惜しみ、努力を惜しまず」で実力アップ、逆転可能なこの貴重な夏休みの40日のチャンスを決して逃してはなりません。

■夏期講習参加の意義

自宅学習は大事ですが、果たして長い夏休みにそれだけで成果ある学習が臨めるのでしょうか？

わからない問題、疑問点があれば、参考書や辞書を引っ張り出し、膨大な時間をかけて調べる。

暑い中、それだけでエネルギーと時間を費やし、せつかくあったやる気は減退。しかも疑問点はわからない問題は解決しないまま。・・・何も身に着けずに不安と焦りをさらに抱える。

当教室に来られると、それらの点は一挙に解消できます。

この夏期講習では、前述の通り、まず目標とそれに基づく計画をしっかりと立ててもらった上で、やる気と集中力を最大限引き出し、ムリムラムダのない効率効果的な授業学習で最大の効果を発

揮していきます。スタッフ一同最大限のサポートをさせていただきます。

【各学年夏休み学習絶対時間目安】

【夏休み：40日×24時間＝960時間】

受験生（中3、高3、中学受験生）・・・	300時間【1日8時間（約30%）】
中2生、高1、2生・・・	200時間【1日5～6時間（約20%）】
中1生・・・	170時間【1日4時間強（約17%）】
小学5・6年生・・・	120時間【1日3時間（約12%）】
小学3・4年生・・・	100時間【1日2時間半（約10%）】
小学1・2年生・・・	80時間【1日2時間（約8%）】

《ただし、質量ともに充実した時間に限る。夏期講習や通常授業時間を含める。》

【学力方程式】＝「やる気（集中力）」×「学習の量」×「学習の質」（←どれかひとつでもかけてもダメです！）

この夏の頑張りに比例して後で必ず大きな利子として返って来ます。この夏の最大限の頑張りで未来の可能性をより確かなものにしていきましょう！！

スタッフ一同、応援・支援は惜しみません。皆様の夏の頑張りに期待します。

早稲田LL安土駅前教室